

緊急レポート 学士会館の全貌

今年度、突如姿を現した謎の巨大建造物、学士会館。

その実態を知る学生は少ない。

そこで、今回我々は、その謎多き学士会館への潜入を試み、見事に成功を収めたのであった。

利用対象者は：

- ① 本学教職員及びその同伴者（学生を

その設置目的とは：

- ① 学術交流の促進
 ② 広島大学における教育研究の発展
 ③ 本学と地域住民との学術及び文化の交流
 ④ 本学の教職員、学生及び同窓生の親睦及び文化の交流
- 以上のことに貢献するために設置されました。



大学関係者（総務課）のH氏に聞く
 （参考資料：広島大学学士会館利用案内）

含む）

- ② 本学に用務をもつ学外者で、本学教職員の紹介するもの
 ③ その他学長が認めたもの

利用手続きは：

- ・ パソコンから申し込み可能
 - ・ 学生が利用する際は、教官を通すと（目的としては、会議などに限られる）
- 詳細は広島大学学士会館利用案内に記載 —

利用料金は：

・ 会議室	レセプション	：	無料
・ 宿泊室	シングル	：	3,800円
	ツイン	：	7,400円
	和室	：	7,100円

〈H氏とのQ&A〉

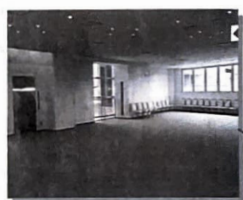
— どうして、学生が利用する際は、教官を通すんですか？

それは利用手続きの効率化が大きな要因です。現在パソコンに登録のみで部屋予約

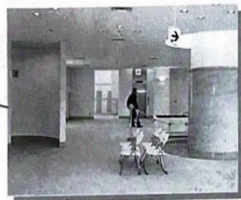
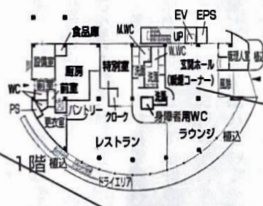
施設内はこのようになっていた!!!!

・鉄筋コンクリート造4階建 2,711m²

階	室内等	収容人員等	備付け設備等
1	レストラン	76名	※業者:リーガロイヤルホテル広島 「La Bohème(ラ・ボエーム)」 営業時間:平日10:00~15:00(17:00~21:00予約営業)
	特別室	14名	
2	レセプションホール	150名	グランドピアノ、電動スクリーン、電動大型吊りハット、 ホワイトボード(3)
	会議室1	22名	電動スクリーン、ホワイトボード
	会議室2	12名	ホワイトボード
3	宿泊室(シングル)	8室	テレビ、冷蔵庫、机、椅子
	宿泊室(和室・10畳)	1室(4名)	テレビ、冷蔵庫、座卓、座椅子
4	宿泊室(シングル)	10室	テレビ、冷蔵庫、机、椅子
	宿泊室(ツイン)	1室	テレビ、冷蔵庫、机、椅子
	共用設備		OHP、データプロジェクタ、スクリーン、テレビ、ビデオデッキ



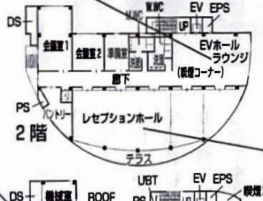
ラウンジ



玄関ホール



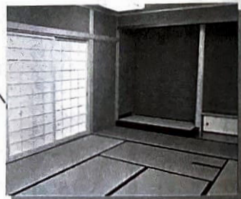
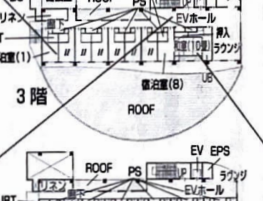
宿泊室(シングル)



レセプションホール



和室・宿泊室前廊下



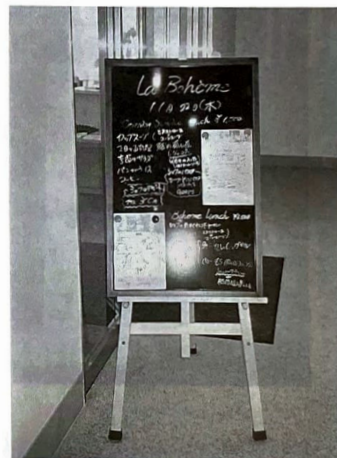
和室



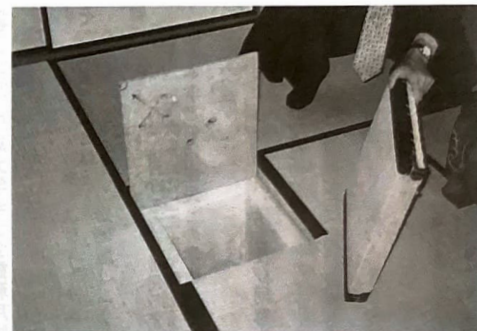
施設紹介

ができませんが、その際借りる責任者と連絡をとるため教官の研究室の内線番号の明記を義務付けています。携帯番号などですと、番号を変えることもあるし、信用度も低下して不確かですからね。学生が直接借りることにすると学生証の提示とか、事務手続きが複雑になるため、学生が借りる場合も教官の方の名义で借りるシステムにしました。

——学生の間で、学士会館はオペラハウスだという噂が流れていたようですが、全然違いますね(笑)。学士会館は、ご紹介したように会議やレセプションのための会場と宿泊施設から成っています。ただ、学士会館の横の空き地に、サタケメモリアルホールという建物が建てられる予定ではあるんですよ。ほら、学士会館利用案内のパンフレットに完成予想図が載っているでしょう。(と、パンフレットの表紙を見せてくださった。興味がある方は一度見てみたらいかがでしょうか)



レストランのメニュー看板



王様の耳はロバの耳IN和室(茶道に使うが)



スクリーンのある会議室(1)



ツインの浴室——障害を持っている方も宿泊可能

総科

昔話

教養部から総合科学部になったのが一九七四（昭和四九）年。東広島キャンパスに移転し、初授業が行なわれたのが一九九三（平成五）年のことである。総科の過去に詳しい安藤正昭先生、小村堯先生、頼頼一先生の三人の先生方に、総科にまつわる色々な話をうかがった。



〈教養部時代〉

※教養部とは総合科学部の原型となった、様々な学部の一一般教養の授業だけを受け持つところである。

★学生紛争

なんと言っても思い出深いのは学生紛争ですね。授業中に六階から机を放り投げる学生もいたんですよ。紛争を止めるために、機動隊がぞくぞく導入されました。

そんな中で、多くの学生が集まる教養部の授業は、急進派の学生にとって格好の標的でした。自分たちの専門学部で派手にやってみよう、ゼミなどで顔が割れていてやばいという意識もあったのでしょうか。

そんなころに教養部の学務委員を務めていたため、ことさら授業に真面目に取り組んでいる学生にはなんとか単位を出してやりたいと委員会で具体的にどうしたらいいかを話し合う日々が続きました。と言っても、その話し合いの場すら大学内では確保できずに、喫茶店や事務長、学務委員長の自宅など転々と場所を変えなければならなかったんですよ。ひどい時には入学式を近くの公園でやりま

したしね。そうした学生紛争の震源地がたいがい教養部だったために、移転の際、総科が現在の場所になったようですよ。

☆オリキャンの始まり

学生紛争によって、授業もまともに開講されず、鬱屈した新入生たちにどうしたら大学生活を楽しんでもらえるかと広島大学体育会とそのOBが考えついたのがオリキャンなんですよ。

何しろ全学規模でしたから、大人数を輸送する必要性から船を使うという事になりました。初年度は千人近くで大久野島へ行ききました。小さな班に分かれる形式は今の総科オリキャンと同じですが、やはり雰囲気は違っていましたね。学部を超えて班分けされたので、他学部の教官や学生との交流が深まりましたよ。

また、秋には、総合科学部の行事として、近大の合宿所に泊二日する沼田合宿というものがありました。それは、コース（現在のプログラム）の責任者が、班に分かれて学生と寝泊りしてコースの紹介をするというものでした。沼田合宿は、西条に移転後は、ガイ

ダンスという形で行なわれるようになったんですよ。

総合科学部が出来、その後西条に移転してもしばらくは全学部体制でオリキャンが続いていました。しかし学部によって移転の時期もバラバラで、さすがにやるのが大掛かりで大変だったので、現在のように学部ごとに任されることになったんです。

〈総科誕生〉

当時の大学御三家は、文・教育・理学部であり、特に教養部は重視されていなかった。「全学部を院を」「教養部を学部」という声に後押しされて、総科が誕生したのである。

★建物がたりなくて

総科が出来た頃には既に将来の西条への統合移転がほぼ決まっていたので、東千田キャンパスには総合科学部のための新しい建物を作ることは出来なかったんですよ。そのため全学部の教養課程の学生に加えて総科専門の授業もそれまでの教養部の建物でやらねばならず、教室はフル稼働状態でした。

それでも足りずに東千田キャンパスの空き地。果てはバレーコートやテニスコートにまでプレハブを建て、又JRから貰うけた貨車を研究室に充てるなどしてしのいでいました。その貨車に住んでいた先生もいたんですよ。

でも、プレハブの生活は、色々と不便でした。プレハブの中には、トイレが無かったので、雨の日には、本館まで傘をさしていかなければなりませんでしたし、台風の時には、屋根がとんでしまったなんてこともありまし



↑廊下にも物があふれて

↑プレハブ校舎



☆コース制の発足

総科は一学部一学科でコース制という、新しいタイプの教育体制がとられました。発足当時、体育学部創設という動きがあつて、語学と共にコース制の中には組み入れられず、教養教育のみを担当していました。だから当初は四コース制だったんですが、学生増に伴つて結局一昨年までの八コース制でやつてきました。

今回のプログラム制への移行も、より新しい時代に対応できるものを求めて進められてはきましたが、ややその意にそぐわない点もあるように感じています。

★先生と学生のふれあい

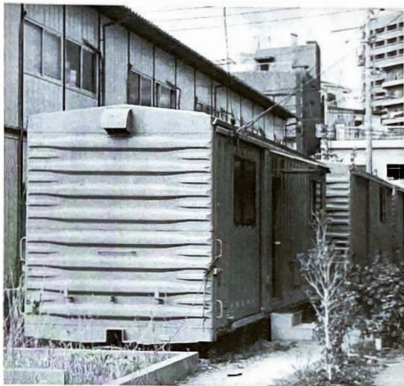
教養部のころ、先生方は、行事によく参加されてきました。ある時、水泳教室を開講することになったんですが、肝心の水泳を教える人手が足りなくてね。教養部の先生たち呼びかけたところ、思いがけずたくさん先生方がお手伝いしようと言つてくださつて、驚いた覚えがあります。

教養部で教えていると専門のゼミ生が持てず、学生とのふれあいが本当に少なかったですからね。だからこそ当時の先生方は、オリ

キャンなどの行事にもよく参加されていたんでしょね。

総科が創設されて、先生たちは、自分の教えた学生の卒業指導ができることをうれしく思っていました。今までは二年でサヨナラしていたもので、お茶を出したり、談話に時間を割いたり、先生たちは学生の面倒を良くみていましたし、学生は研究に熱心でした。

また、卒業発表会は一泊二日で行なわれていました。昼から夕方にかけて発表をし、その後は、酔っ払った先生も続出だったさうですよ。その他、ソフトボール大会も開かれていて、先生も学生も積極的に参加してしま



↑サークル棟も貨車...

☆こんな学生がいた

エピソード①

これほど熱かつた学生

頼先生が、三回生のR君を卒業生の会に招き、研究会につれていった時の晩のこと。研究会の研究会の疲れから、すっかり眼い頼先生しかし、そんな先生の枕もとには……

先生に向かつて、「総合科学とは何か」、「地域研究とは何か」を熱く語るR君の姿が。

「先生のやり方ではだめなんだ！」という発言も飛び出し、R君の熱弁は延々と夜通し続いたのだった。

頼先生「学生がとても真剣で、ほんと元気なんですよ。納得いくまで、議論が続きましたからね。私も負けてしまったことがあつて、悔しかったですね。」

エピソード②

こんな研究をするのか君は！

総科からは昔から常識にとられない学生が多く輩出されているらしい。

先生の印象に残っているのは、総科ができて初めのころの学生A君。

彼の卒業テーマを聞いて先生はびっくり。彼の卒業テーマ。それは「遊郭」。

遊郭それは今でいう歌舞伎町、「いらっしやーい、お兄さん♡」の風俗である。

今ではそう驚くべきものではないのかもしれないが、これは、今から二十年も昔の、まだまだそんな大胆なテーマで研究する人など皆無の時代の話である。学問の対象にするなんて、君っ、君ー！という感じだろうか。

まさに「悪書」の研究である。ちなみに当然の事ながら、そのような本が当時、学校の図書館にあるはずもなく。彼は自力で本を集めたらしい。

エピソード③

こんな資格を……



学生時代に資格を取り、将来に役立てたいと思うのはみな同じである。同じではあるのだが、中にはこんな資格を取る人もいる。大玄経の研究をしていたD君。そう大玄経というと思慮深い文学青年を思わせるところ。しかし、彼が取った資格は、なんと「潜水夫」。

この仕事は、トレーラーの運転手並みの命がけの仕事として給料も良いらしいが、面白い学生もいたものである。

ちなみに彼は、普通の民間企業に就職したらしいが、履歴書の欄に「潜水夫」と書いたのだろうか。気になるところである。

ご協力いただいた先生方

■安藤正昭先生

人間行動研究講座教授。昭和五〇年に総合科学部に赴任。専門は、適応生理学。

■小村茂先生

保健体育講座教授。昭和三九年に広島大学教養部に赴任。専門は、健康スポーツ科学。

■頼祺一先生

現文学部学部長。昭和五一年から平成五年まで一六年間総合科学部に在籍。専門は、日本史学。



私は色々知っている... 旧総科玄関

(取材・木島 静香 行田 万里子

榎原 紗緒里)

エコミュージアムとホタルの宿

広域文化研究講座助教授 浅野敏久



私は環境運動を研究対象としており、学生の頃から霞ヶ浦や中海・安道湖の辺りをうろろろして、いろいろな人たちから話を伺ったり資料を集めたりしていました。環境保全に関わる人の人脈は結構広く、特定の場所にこだわっていても国内外の人たちとの結びつきができてきます。山形県の朝日町でカモシカ調査をしているグループとの出会いもふとしかたがきっかけでした。この活動の拠点となっている宿はなかなか面白いところで、環境問題や環境教育

に関心のある人が各地から集まっています。ご主人自身が、三十年近く前に環境教育を実践できるフィールドを探して全国を歩き回っているときに偶然この町と出会い住み着いたという人物です。

私はこの人や宿に集まる人たちからいろいろな影響を受けていますが、あえて2つのキーワードで示すとエコミュージアムとネイチャーゲームです。前者については講義でも紹介するのでご存じの方もいると思いますが、地域をそのまままるごと博物

館とみなし、その自然や歴史、文化、生活、産業などに関わる資源を発見、再評価し、新たな意味づけを与える地域づくりの理念ないし方法論です。後者のネイチャーゲームは環境教育プログラムのひとつで広く普及しています。最初にネイチャーゲームを日本に紹介し普及させたのが、一時期いっしょにカモシカ調査をしていた仲間でした。私と同年

くらいですが、今ではネイチャーゲーム「業界」ではカリスマ的な人物になっており、一會員にすぎない私



などが「〇〇君」などと言おうものなら、「会長になって口を聞くの」と他の人から睨まれてしまいます(つこ)。

話がなかなか本題にたどり着かないので強引に軌道修正。実はこの2つとも、私は広大に赴任してから東広島で実践しているものです。エコミュージアムについては、「昨年、数人の仲間と「広島エコミュージア

ム研究会」なるメーリングリストを核にしたグループを立ち上げ、その後、環境教育イベントなどを不定期に行っています。東広島でなく広島と冠したのはネットワークをどんどん広げたいとの思いがあつたからで、実際に偶然に頼りながらじわじわ広がっていますが、主たる活動場所は東広島市志和郷の「ホタルの宿」とよんでいる茅葺き民家です。ホタルの名所として知られる小川の端に建つこの家では、ホタルの季節に夜間開場の「手作りミュージアム」をボランティアで開設しています。昨年の教養ゼミではこの設営や運営に参加しました。かなり壮観なホタルの景色を見ることが出来ます。暇があれば見に来てください。多分その時、真つ暗なかで家を開けて灯りを灯している家があつたらそれがホタルの宿です。

研究会ではホタル以外にも川遊びだとか鍋の会だとかいろいろやっています。興味がある人は私までお問い合わせ下さい。その他の活動についても多少紹介できます。大学キャンパス内の山中谷川にホタルを復活させよう(増やそう)という活動や里山ボランティアの活動、西条酒蔵地区の魅力を引き出そうという活動等々です。どれもこれもエコミュージアムの重要な資源です。また、遠いですが山形でカモシカを見てみたいという方も歓迎します。かつて広大からもあるサークルが毎年はるばる遊びに来ていて、ブナの森で自然発生した山火事を発見しバケツリレールでそれを消し、表彰された云々の話が語り継がれています。山形で「広大生」というだけで歓迎される珍しいところです。

唐突ですが、收拾がつかないので



とりとめのないまま文章を結びます。学生時代にその後につながる何かを見つけておく、誰かと知り合っておくといひです、とアドバイスめいたことで結びたい気もするのですが、言葉が軽すぎますね、私の場合。

研究レポート

モルフォロジーと画像解析

数理情報科学講座 助教授 浅野 晃

画像を、各々が明るさや色を表す数値をもつ「画素」の集まりに分解して、コンピュータを用いた計算によって操作する「デジタル画像処理」は、最近大変身近なものとなっています。家庭内だけでなく、画像の伝達、認識に、デジタル画像処理は広く用いられています。

本稿では、さまざまなデジタル画像処理の中で、「テクスチャ解析」を取り上げます。テクスチャとは、本来は布地の織目のことで、画像工学では、一般に図1のような物体表面の「模様」をさします。画像処理でまず着目されるのは物体の形ですが、テクスチャの特徴も同様に、物体を認識・識別するための情報を与えます。

テクスチャと「モデル」

テクスチャ、すなわち模様というのは、ある微細形状が繰り返し現れて構成されていますが、人は繰り返しのひとつひとつの微細形状のわずかな違いを問題にはしません。それよりも、おおまかにどんな形の微細形状が配列されているかに着目していると考えられます。

本稿では、微細形状の形を記述するわれわれの研究を紹介し、右で述べたように、ひとつひとつがわずかず異なる各微細形状を詳細に記述しても、あまり意味はありません。そこで、テクスチャの特徴を記述するには、「テクスチャが生成される際」に、あ



図1. テクスチャの例

る基本の形状が、相似変形やランダムな揺らぎを受けながら配列されていった結果、互いに似ているけれども異なる微細形状がテクスチャに配列されていると考え、その「基本の形状」を推定することにします。この考えを、ここでは「テクスチャ生成のモデル化」と呼び、現実の画像にある微細形状を「粒子」、「基本の形状」を「要素形状」とよぶことにします。

要素形状の推定を行うために、本稿で用いるのは、モルフォロジーという手法とサイズ分布という考えです。モルフォロジーは、画像に含まれる物体形状に対する各種の操作を定量的に記述する手法です。

サイズ分布とテクスチャ

サイズ分布とは、モルフォロジーの手法を用いて、画像中の物体形状がある基本となる図形(こ

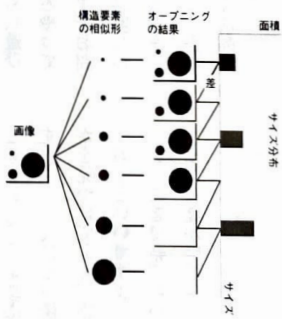


図2. サイズ分布の求め方

れを構造要素とよびます。の相似形に分解し、どのサイズ(構造要素からみた倍率)の相似形がどのくらいの面積を占めているかを表したものです。図2に、サイズ分布の求め方を示します。ここでは、構造要素を円形としています。各サイズの円形を考えると、その各円形を使って「画像中の物体から、その円形よりも小さな部分を取り除く」という処理を行います。この処理は、モルフォロジーの基本演算のひとつ「オープニング」で行えます。

こうしてできた画像をサイズ順に並べると、だんだんと細かい部分を取り除かれていく画像の列ができます。そこで、この列のなかで隣り合う画像どうして画像中の物体の面積の差を求めると、画像中に含まれる各サイズの円形の面積がいくらかがわかります。

図3は、「テクスチャには、まんべんなくいろいろなサイズの、相似形の粒子が含まれている」と仮定して、そのようなサイズ分布が得られるような構造要素を試行錯誤的に探索した結果得られた図形です。この図形が、テクスチャの要素形状に対応することがわかったと思います。

また、図4のように要素形状が複数種類あると思われる場合は、テクスチャをそれぞれの粒子に分割し、それぞれの粒子に対してサイズ分布を求めて、サイズ分布が似ている粒子をグループ化するという方法をとります。このようなグループ化は、「クラスタ分析」という統計学的手法で行えます。グループの中の代表的な粒子を取

り出すと、図4のように要素形状がわかります。

スケルトンとテクスチャ

スケルトンとは「骨格」のことで、画像中の物体の中心線を求めて、物体を単純化して表現したものを言います。モルフォロジーにおけるスケルトンとは、図5のように、構造要素のなるべく大きなサイズの相似形を物体の内部に配置して、物体の内部を埋め尽くしたときの、相似形の中心の集まりです。

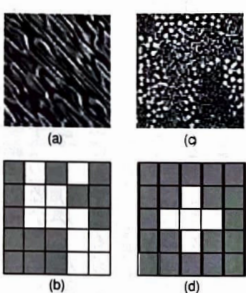


図3. 推定された要素形状。(a)(c) テクスチャの例。(b)(d) (a)(c)のそれぞれの要素形状の推定結果(5×5画素で表現されている)。

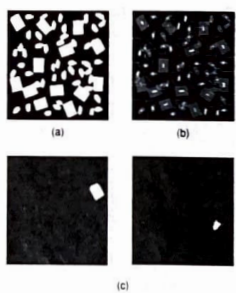


図4. 複数の要素形状がある場合。(a) テクスチャの例。(b) 粒子を分割。(c) 抽出された要素形状。



(a)

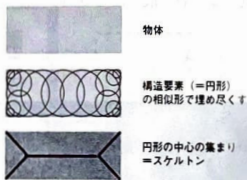


図5. スケルトン

て求め、スケルトンを構成する点の数もつとも少ない構造要素を見つけると、この構造要素はテクスチャの要素形状にもつとも近いということが出来ます。この方法は、サイズ分布について仮定がでない場合に有効です。

図6はその例で、(b)や(c)の構造要素を使って求めたスケルトンよりも、点の数を最小にするように探索して見つけた(d)の構造要素のほうが、要素形状をうまく表しているといえます。

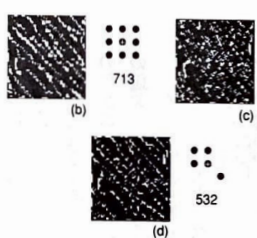


図6. スケルトンとテクスチャ。(a) テクスチャの例。(b)(c) 適当な構造要素によるスケルトン。●=1画素、数字は点の数。(d) 探索された構造要素。

「カーリー・スー」 ～世界で一番 ちっちゃなサギ師～

(1991年アメリカ)
ジョン・ヒューズ
監督 アリサン・ポーター
主演

おかげさまで3回目をむかえました。映画紹介のコーナーです。

やっぱり世の中お金と肩書き。お金も職もないホームレスは人にはい菌扱いされて路上を彷徨い、立派な肩書きを持つお金持ちは、いい人、に囲まれてリッチな生活。そんな現実をこの作品は皮肉をこめて風刺しながら決して否定してはいません。そこに加えて、「人を愛するのにお金も肩書きも関係ない」という一本の確かな旋律がこの映画をハッピーなものに仕上げています。お金、地位、そして愛、定番中の定番のテーマですが、その見せ方が本当にうまい！

主人公は、当たり屋などをやりつつ食いっながらホームレス親子、ストーリーは、その親子の父親を高給取りの美人弁護士が本当に車で跳ねてしまつことからはじめます。生きる境遇も価

値観もまるで違う二人が、お互いの抱える矛盾に満ちた「現実」にとまどい、苦悩しながらも次第に惹かれあつていきます。そこでいい味を出しているのが何ととっても主人公の女の子、カーリー・スー。肉付きのいいほっぺに、ずる賢そうなくくりの目を持ちながら、一つ一つの動作や表情がとってもキュートです。でも、かわいからって油断すると、あつという間に、あなたも腕のいいサギ師のカーリーにひっつかかってしまいます。子役の演技もうまいし、ホーム・アローン1、2でアレックス君を演じたマコーレー・カルキンにも勝るとも劣らないと思います。現実をかなり誇張、または簡略化しています。こんな奴いねーだろう、つていう完全な悪役も登場するし、主人公たちも現実にはありえないほど都合よく善人だったりします。だけど、ちゃんとしてリアリティがある。ストーリーがうまくいきすぎる映画は「現実はこのなんのじやない」と言いたくなる。でも逆に悲しいほど現実的だ。と「映画なのだからここまで生々しくなくていいの」とほやきたくなる。それが視聴者の心理ではないかと思っています。その作品はそのへんをちゃんと分かっています。作品の隅々にまでちりばめられたジョークの数々は最後の最後まで笑わせてくれるし、場面構成も洗練されていて視聴者を飽きさせません。派手なアクションやベッドシーンに全くたよらずに視聴者を

ひきつけるとは、製作者の作品に対する誠実さがうかがえます。エンターテイメントとしてここまで完成されているからこそ、まっすぐにこの作品のメッセージが伝わってきます。「人間の価値って何だろうか?」「本当に大切なことは何だろうか?」と素直に疑問に思えてくるのです。個人的には本当に名作だと思うのですが、当時からあまり評価されていないのが残念です。アカデミー賞の類をとるにはタッチが軽い。興行収入を莫大に稼ぐには派手さが足りない。といったところでしょうか。そこがこの作品のよさでもあるわけですが。みなさんもこの「掘り出し物」の映画をどうぞ見てみてください。

(大宅まり子)



主人公 カーリー・スー

第2回後援会総会が開催されました

後援会は広島大学総合科学部での円滑な教育活動を支援し、併せて会員相互の理解及び協力関係の維持を図ることを目的とする会です。この会は総合科学部に在籍する学生の保護者と総合科学部所属の教官の指導を受ける大学院生の保護者として、後援会の目的に賛同する者(賛助会員)で構成されています。

平成十三年度の後援会事業計画の支出 予定項目を以下に挙げます。

一、学生の教育援助

- * オリエンテーションキャンプ経費援助
- * 展開研究優秀論文表彰経費
- * 職業適性診断「リクルートRキャン」経費
- * 就職講演会経費
- * 卒業記念品経費

二、国際交流関係援助

- * 学生の留学経費援助
- * 留学生との交流会経費

三、その他

- * 広報誌等印刷費
- * 総会(役員会)開催費
- * 通信費
- * 消耗品費
- * 振込手数料

後援会会費について

会則第六条で、会員は、次の区分により入会・入会時に一括納入するとされています。

- (一) 保護者会員 1万円
- (二) 賛助会員 1万円以上

後援会の目的を理解していただいた上で、より多くの皆様が会員になつて下されば、後援会事業の豊富化が図られ、学部教育がより充実すると期待されています。

第2回後援会総会に出席した、前飛翔編集委員長の北岡未紗さんの感想を載せます。

私も含めてですが、多くの学生は、後援会というものを詳しく知らないのではないのでしょうか。しかし、後援会というものに対して全くの無知ではないかと、今回の後援会総会に参加して思いました。

後援会は私たち学生に対して、様々な援助を行つています。例えば、就職講演会、リクルートRキャン、留学、オリキャン、卒業記念品などに必要な経費の援助です。これらの補助金は私たちの保護者である保護者会員、その他賛助会員からの会費及び寄付金により賄われ、私たちの修学が少しでも円滑に行なわれるように援助を受けています。今まで、自分を取り巻く環境に対して無自覚すぎたのではないかと思えました。

読者からの声

総合科学部二年生 朝吹佳代さん

一年当時は自分と飛翔の接点があつておらず、真剣には目を通していなかった気がします。(すみません。)しかし、一年目終了時位から、広大で、今何が取り組まれ、どの方向に学部自体が動きつつあるのか、実は自分に密接な関わりのある事柄や情報が良く分かっていることに危機感を感じていました。そのように感じる頃から飛翔がひとつの情報源になっています。研究室紹介を読むのが私は好きです。これから担当教官に付く身としての重要な情報源ですし、卒業題目やインターンシップ、留学情報に、現場の声などこれも身近に感じるタイトルばかりです。あえて言わせてもらえば、結構空きスペースも多いように感じます。薄いけれど、情報先取りで中身の濃い飛翔に期待しています。

総合科学部二年生

K・サンタクロースさん

飛翔は読みやすく、くつろぎながら眺める分には満足の行くものだと感じました。このようない方は相応しくないのかも知れませんが、ただ飛翔が、どのくらいの人々の時間を費やし、どれだけの予算の枠内で作成されているか、などの実情を知らないのが、安易な批判はできません。

なぜ飛翔は読まれないのか、といった一文も前回の号にありましたが、実際にはその名は少なからず耳にしているはずで、手に渡っているものに関しては目を通してと思うられます。送り出す側からすれば、我々部外者の反応はいまいちに映るかもしれませんが、それは多くの刊行物に共通する宿命かも知れません。特派記者による命がけの記事ですら、日常の事件として特別の注意が払われないこともあるでしょう。

敢えてひとつ、申し上げますと、学生側の参加を促してはどうでしょうか。例えば、「授業評価」「自分は学生の名に能うか」など。

繰り返しですが有用な情報も収められており、よくできています。今後もがんばってください。

編集委員から

字が詰まったものだと、読もうという気持ちと意気持ってもらえないかもしれないという恐れから、若干空きスペースを多くしてあるのですが、朝吹さんのような意見があることを知り、とても参考になりました。Kさんのご指摘にもあつたように、読まれることをあまりに期待しすぎなのかも知れません。記事自体が魅力ある、中身の濃い内容であることが最も重要であると改めて気づきました。今後も、総科生にとって有用な記事を載せていくことに必死になって取り組んでいきたいと思えます。ご意見、ご感想、いつでもお待ちしております。

飛翔Eメール

hisyo@hiroshima-u.ac.jp

東広島キャンパスの中の道



②

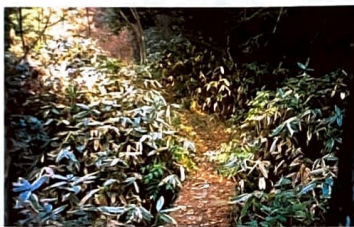


①

誰が作った道だろう。

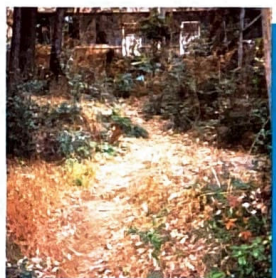
いつからある道だろう。

どこに続いているんだろう。



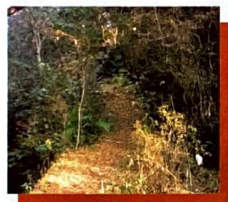
③

大きな道もあれば小さな道もある。整備された道もあればそうでない道もある



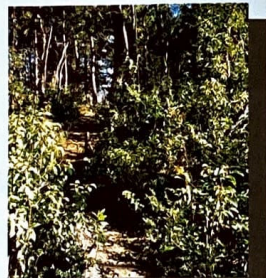
⑧

今日はどちらの道を行こう。



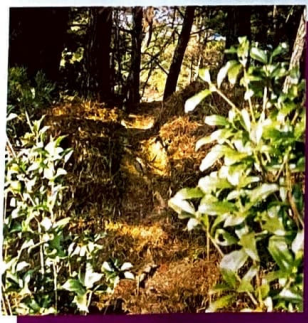
⑤

この道はきっとあの場所に続いている気がする。ただその跡だけを頼りに今まで歩いてきたけれど



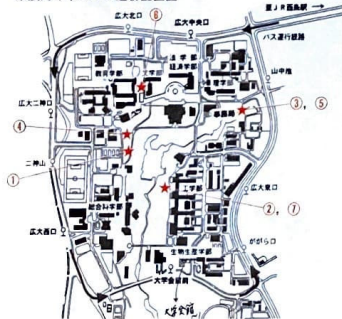
④

この坂を登りきったらなにがみえるだろう。



⑦

東広島キャンパス建物配置図



これらの道はすべて東広島キャンパス内にある道(?)です。どこにあるかあててみて……。

編集後記

☆松岡由見子(学生編集長)

今回の編集作業を通して一番感じたのは自分の未熟さでした。今の飛翔をもっと良いものにした、という強い思いはあったのですが、どうすればそれができるのか分からず、迷路の中の同じ場所をぐるぐる回っているような気分でした。それでも、突然現れたような「編集長」という肩書きだけは健在で、自分の実力とのギャップにずっと悩んでいました。しかし、そのような中でも、今回の飛翔が出来上がったのは、厳しい言葉で導いて下さった先輩や、編集委員の先生方、事務の方、その他皆さんのご協力のおかげです。そして何より、学生編集委員の皆さんのがんばりが今回の飛翔を創りました。少ない人数にも関わらず、本当に頑張りました。また、私の急な要求に、いつも応えてくれて、本当に感謝しています。

☆梶原恵輔

忙しさというものは、忙しいと思っている間はそうでもなくて、ホントに忙しい時は、忙しと思う暇なんてないのね(涙)。でも何故か、「大変だったなあ」というような感傷だけは出てこない。ん、結構楽しい思い出になりました。

☆木島静香

相変わらずレイアウトに悩まされる日々でした。私のパソコン技術が上達するのは、いつのことやら。いつかそんな日がくるのか？うーん、ナゾ。

☆後藤周平

担当した企画が一度は潰れて、それが復活して、いつの間にか特集になって、そのために増量して……。とにかく疲れました。

☆朝田のぞみ

今回も仕事をしたんだかしてないんだか。微妙だ……。次号ではもう少し頑張ろうかと思えます。

☆堀部正拓

取材に快く応じてくださったマスコミ各社の方々に、この場を借りて厚くお礼を申し上げます。就職活動や勉強のために、なかなか時間がみつからなかったこと、同僚のみならず取材先の方々にまで多大なご迷惑をおかけしました。申し訳ありませんでした。皆様、本当にありがとうございました。感謝。

☆渡辺理紗

目次でした。



編集委員

(教員)

宇佐美 広介(編集委員長)
安西 信一
北里 和則

(学生)

松岡 由見子(学生編集長)
梶原 恵輔(学生副編集長)
木島 静香(学生副編集長)

(一一生)

堀部 正拓 鮫島 和美

(二二生)

大宅 まり子 近藤 由紀
北岡 未紗 高橋 佳子

滝波 稚子 麗 侑佳
松浦 愛子 渡辺 理紗

(三三生)

朝田 のぞみ 行田 万里子
後藤 周平 榊原 紗緒里